

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	アフターコロナ社会における包摂的な社会教育のあり方の検討				
研究組織	代表者	所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	角替 弘規
	研究分担者	所属・職名	静岡大学・名誉教授	氏名	馬居 正幸
		所属・職名	静岡産業大学・教授	氏名	松永 由弥子
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	角替 弘規

講演題目	「しずおか自主夜間教室」における社会的包摂の可能性
------	---------------------------

研究の目的、成果及び今後の展望

【研究の目的】
 本研究の目的は、アフターコロナ社会における新しい社会教育のありかたについて、静岡県内の社会教育活動を踏まえながら検討することにある。

新型コロナウイルスへの感染が拡大する以前より、静岡県は外国人比率が約2%と全国的にも高水準にあり、かねてより多文化共生社会の構築が目指されていた。また少子高齢化の進展も進み、様々な地域課題を抱えている状況にある。これらに加えて新型コロナウイルスへの感染が拡大することで、社会の全域にわたって経済的文化的な分断が急速に進行している。とりわけ、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う職業的・経済的打撃を受けやすい社会的弱者に対する社会的包摂の具体的方策について検討することが急務であろう。

そこで本研究では、静岡県内における社会教育の活動についてフィールドワークを重ねることで、アフターコロナ社会において求められる社会教育の具体的なあり方について模索するとともに、当該社会における社会的包摂のあり方を検討しようとするものである。**【本研究の成果及び今後の展望】**

今回取り上げた「しずおか自主夜間教室」は2022年に取り組みが始まったNPOによる社会教育活動である。教室の対象は従来のいわゆる夜間中学校と同様、学齢期に十分な学習機会に恵まれなかった方、外国人、外国ルーツの子どもなど、様々な事情により学校教育から距離を持たざるを得なかった方々を中心とする。月2回の活動で小規模ではあるが学習者とスタッフが対話を通じながら少しずつ学習を行っている。その狙いは学習そのものよりも学習者とスタッフが社会的な関係を構築することにある。つまり、これまで何らかの形で社会から排除され、困難を抱えてきた学習者が、もう一度社会に対する信頼を得て社会的人間的なつながりを作ってもらうことで、社会的包摂を実現しようとするところにある。学習を通して学力の向上を狙おうというよりも、むしろ学習を通じて友人や知り合いを作り、学習者が自分の抱えている問題を周りの人に開示し、それらに対して手助けができるような環境を作ろうとすることが主眼となっている。こうした狙いがどのような成果を生み出すのかは、まだこれからの活動の継続如何にかかっているが、こうした活動を継続するうえで今後解決が求められる課題としては以下のことが挙げられる。

一つには学習者のニーズの把握であり、二つ目には学習者の掘り起こし、三つ目には財政的なサポートである。こうした課題を抱えつつも活動を継続することで、より大きな社会的包摂の実現につながるものと考えられる。